

## 注視することが大切

高崎商科大学 第1学年 阿左美彩華

「子育てくらし」(『上毛新聞』(2014.6.24～7.22))を読んで、驚いた。自分の無知を恥じた。とくに、西アフリカのガーナ北部の村では、女性が大人になるための通過儀礼として、少女たちは幼少期に女性器の一部、または全てが切除されるという行為が行われ、また、生理は不浄なものとして初潮を迎えた少女は、真っ暗な部屋の中で2週間過ごすことを強いられ、太陽の光や男性を見てはいけない、牛乳を飲んではいけない等のさまざまなことを禁止されたことなどである。

これらの話を初めて読み、私は言葉が出なかった。日本では、女性差別等を特に感じることはなく、考えることなく過ごしてきた。だからこそ、女性差別に対してそこまでの重要な問題性を感じてはいなかった。だが、世界中では、女性差別によりたくさんの少女が悲しく辛い思いをしていることに気がついた。少女たちの女性器切除(FGM)をされた時のことを想像し、涙が出た。私には少女たちの痛みや恐怖を感じることは不可能だ。想像するだけで辛くなり、目を背けたくなる行為だと思った。何故少女たちはこのようなことを強いらなければならないのか。

何故このような行為が、普通に行われているのか。私には理解することができない。この行為を数え切れないほどの少女が苦しみ、恐怖した。その事実にも私も恐怖を感じた。男として生まれればこのような苦痛を感じる必要はなかったであろう。女として生まれてきただけで、痛みと恐怖を受けた少女たち。何故ここまでできるのか、男と女それだけの違いでここまでされている。何故、誰も止めないのか。疑問を感じた。

これは発展途上国だけの問題ではなく、全世界男女共通の問題であるといいたい。

この問題を解決するためには、これらの問題を注視することが重要であると考え。そのためには、第一に、今、少女たちが受けている行為を世界中の人に知ってもらうこと、その上で問題解決に全力を尽くし少女たちを救わなくてはならない。少女たちを救えてこそ本当の女性差別の改善、ということになる。

第二に、全世界の女性差別を改善するために、まず、私たちができることから始めることが大切である。私は、世界中で起こっている女性差別の実態をきちんと理解し、たくさんの人にその事実を知ってもらい、この事実を問題として取り上げ、募金や国際ガールズデー等の女性差別に関する活動に支援・協力することだと思う。私にできることはとても限られている。だが、少女たちの差別をされていることを、見過ごすことはできない。これから女性差別がなくなるよう常々今できることを考え続けていくことが重要であると考え。